

予防救急で防ぐ重大事故

9/9(木)は救急の日

救急の日は、救急医療関係者の意識を高めるとともに、救急医療や救急業務への国民の正しい理解と認識を深めることが目的と定められています。救急搬送件数は、全国的に増加傾向です。救える命を救うために、私たち一人一人ができることを考えてみましょう。

富士山南東消防本部
警防救急課
972-5803

救急車の適正利用にご協力を

富士山南東消防本部管内の令和2年中の救急搬送件数は、7,652件(1日平均20.9件)でした。119番通報で救急要請を受けると、対応可能な最も近くの救急隊を出場させますが、出場件数が増加すると、遠くから救急車が現場へ向かうため、本当に救急車が必要な人のところへ到着するまでに時間がかかります。不要不急の救急要請は、救急車が間に合わず、救える命が救えなくなる危険性が高まるので、救急車の適正な利用をお願いします。

予防救急で事故予防

転倒や転落などの事故のけがなどで救急車で搬送されてくる事例の中には、ほんの少しの注意や事前の対策などの日頃からの心がけや環境づくりを取り組むことで予防できることがあります。

救急車が必要になるけがなどを、少しの注意や対策で未然に防ぐことを、予防救急といいます。事故は、身近で安全と思われがちな住宅で多く起きています。普段の暮らしの中で、予防救急に取り組み、身近なところから事故防止に取り組みましょう。一人一人が予防救急に取り組むことで、救急要請件数が減少し、本当に救急車が必要な人のもとにすぐ駆けつけることができるようになります。

救急テレホンサービスの活用を

救急テレホンサービスでは、自動音声通話で、その日の外科、内科、小児科などの救急協力医を案内しています。

119番は、火災や救急などを要請するための緊急通報用の電話回線です。救急協力医の問い合わせは119番ではなく救急テレホンサービスへお願いします。

救急テレホンサービス
983-0115

家庭での事故原因と予防救急

転倒

段差、玄関、廊下など



- 段差につまずかないよう気をつけましょう
- 転倒を防ぐために整理整頓を心がけましょう
- 階段、廊下、玄関、浴室など滑り止め対策をしましょう

転落

階段、ベッド、椅子など



- 階段などには手すりを配置しましょう
- ベッドにも転落防止の柵をつけましょう
- 脚立などを使用して作業するときは補助者に支えてもらいましょう

窒息

食物、薬等の包装など



- 細かく調理。ゆっくりよく噛むことで窒息予防
- お茶などの水分を取りながら食事をしましょう
- 急に話しかけて、あわてさせないように気をつけましょう

ぶつかる

家具、人、柱、ドアなど



- 慌てず、周りをよく見て行動しましょう
- 通路などに物を置かないようにしましょう
- 暗いところは十分な明るさを確保しましょう